

## 囲いわなによる効率的なシカ捕獲及び普及

四国森林管理局 森林技術・支援センター  
業務係長 芹口 竜一

### 1 課題を取り上げた背景

近年シカによる被害が深刻化しており、四国局でも新植地の食害や剥皮被害が多く発生している状況にあります。

このことから、当センターでは平成23年度より「囲いわな」によるシカ捕獲試験を実施し、さらに現在、捕獲の効率向上や耐久性の検証等を実施するとともに、普及・支援活動等に取り組んでおり、その経過を報告します。

### 2 取組の経過

わなの開発については、普及を見据え、法令上「囲いわな」であれば狩猟期間内に限り、一定の要件を満たせば免許等が不要であり、ハコわなの上部を無くし「小型の囲いわな」として扱えるよう開発に取り組んできました。市販されている「箱わな」は約8万円以上するため低コ



写真 囲いわな

スト化（約2分の1程度）に向けて、「ワイヤメッシュ」を利用し、合計8タイプの「囲いわな」を試作・捕獲試験を行っています（写真）。

### 3 実行結果

#### （1）捕獲したシカの分析

平成23～26年度に国有林内において捕獲試験を実施。236箇所に設置し、うち100箇所で捕獲（166頭）しました。（23年11月～27年3月末）。

捕獲したシカの分析としては、捕獲した個体別にみると若い個体（20kg

以下）の捕獲が57%と多い傾向にあり、若い個体は、警戒心が薄いためと推測しています。性別で見るとメスの捕獲が68%と多く、活動範囲がオスに比べて狭く子育てすることも一因と推測されます。なお、かつて行われていたメスジカの捕獲制限がシカ急増の一因とされていることからメスを多く捕獲することは個体数減に効果的であると考えています。

#### （2）動画データ等の解析から試みた対策・方法

囲いわなと一緒に自動撮影カメラを設置し、シカがわなに近づいているか、どの方向から来ているのか等について動画を分析し、わなの設置場所・移設時期を検討しました。状況が可視化されたことにより、対策をより効果的に行うことが出来るようになりました。

#### （3）普及・支援

開発した囲いわなの普及・支援活動を行っています。

民有林支援の一環として、民国が連携してシカ被害の軽減を図ることを目的に農家林家関係者等を対象に現地検討会・わな設置指導等を、また、住友林業や愛媛大学等においても検討会・わな設置指導等を行いました。

## 4 まとめ

わな本体は一定の完成が得られたと考えています。今後は更に捕獲効率をより向上させるため、餌には寄りついてはわな内には入らない「スレ個体」を捕獲するための一層の工夫（仕掛け・餌等）を検討していきたいと考えています。

普及・支援については、地区とのパイプ役として市町村の担当職員や農協の鳥獣対策指導員等、地域の実情に精通している者に加わってもらうことが、スムーズな活動を図るうえで大変有効であるとともに、活動を単発的に終わらせることなく随時フォローアップを行うなど継続した取り組みが重要です。個体数調整としてのシカ対策は、一過性に終わらせることなく他機関と連携したり、積極的に情報収集を行いながら、普及に向けて継続的に取り組んでいくことが重要であると考えています。今後もシカ被害に対する取り組みを継続していきたいと思えます。